

8	愛知	日進市立日進中学校	イシダ アユミ
			名前 石田 亜由美

分科会番号	2	分科会名	外国語教育
-------	---	------	-------

ペア活動やグループ活動を活用した対話的な授業実践

～授業の帯時間を使った活動を通して～

1 主題設定の理由について

令和2年度より、小学校高学年での外国語教育が教科化され、本格的に小学校での外国語教育がスタートしている。その一方で、小中ギャップに苦しむ生徒も多く目にするようになった。中学校に入学して、最初の授業で毎年「英語が好きか」という質問をするが、年々「好きではない」「英語が苦手」という生徒が増えているように感じている。さらに、学習内容も増え、英語に苦手意識を抱えている生徒にとって、いかに授業が楽しいもので、前向きに取り組もうと思えるようなものであるかが、授業を組み立てる上で必要なことであると、感じていた。

また、令和5年度より、愛知県公立高校の入試方法にマークシートが導入された。学習指導要領の目標の「読むこと」の領域には、「社会的な話題について、文章の要点をとらえることができるようにする。」と記されている。英文の要点や概要を捉えるためには、数多くの語句や慣用表現を知識として知っておく必要がある。

平成29年度に告示された学習指導要領外国語の目標には、「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」と記されている。また「話すこと」の領域においては、「簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。」とある。

このようなことから、ペア活動で行う単語練習や、イラストを英語で説明するグループ活動を、帯時間に繰り返し行うことにした。この活動を通して、楽しく対話的・主体的に英語を学習することができる生徒の育成を目指し、本研究の主題を設定した。

2 研究のねらい

(1) 目指す生徒像

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① ペア活動を通して、主体的に英語を学習することができる生徒。 ② グループ活動を通して、自分の思ったことを英語で表現することができる生徒。 |
|---|

(2) 研究の仮説について

本研究では、次の仮説を設定した。

〈仮説1〉授業の帯時間に、繰り返し単語チェックをペアで行うことで、単語や慣用表現が、知識として身につくようになるだろう。

〈仮説2〉イラストを英語で説明する活動をグループで行うことで、目を見た情報を簡単な英語を用いて、相手に伝えようとする態度が身につくようになるだろう。

〈仮説3〉上記の活動を帯時間で繰り返し行うことで、主体的に授業に取り組み、分からないところを聞きやすい授業の雰囲気になるだろう。

(3) 研究の手立てについて

目指す生徒像に迫るため、以下のような手立てを設定した。

[仮説1に対する手立て]授業の最初5～10分を使って、ペアで単語チェックを行う。各 Unit で単語チェックシート(資料①)を作成し、ペアでランダムに問題を出し合う。その際、意味を答えるのか英語を答えるのかペアで相談し、1分30秒以内にすべての単語を言い切る。時間内にすべての単語を言い切れたら、指定の用紙(資料②)にシールを貼っていく。

[仮説2に対する手立て]授業の最初の5～10分を使う。上記の仮説1の手立てと日替わりで行う。TV モニターに映し出されたイラスト(キャラクター、日本伝統文化など何でも)を、30秒以内で英語のみで説明する。グループで行い、一人が回答者、それ以外の生徒で協力してヒントを出す。毎回どんなヒントが答えを導くのに効果的であったか、クラス全体で振り返る。

[仮説3に対する手立て]教科書の内容を理解する時間には、和訳の穴埋めワークシート(資料③)や問題演習のプリントを活用し、グループで行う。英語が得意な生徒には、サポートをお願いし、聞きやすい雰囲気を大切にする。

単語	英	和	単語	英	和
1	Apple		1	バナナ	
2	Banana		2	りんご	
3	Orange		3	いちご	
4	Strawberry		4	みかん	
5	Watermelon		5	梨	
6	Pineapple		6	ぶどう	
7	Melon		7	きゅうり	
8	Cucumber		8	トマト	
9	Tomato		9	ピーマン	
10	Pepper		10	ナス	
11	Eggplant		11	じゃがいも	
12	Potato		12	かぼちゃ	
13	Squash		13	かぶ	
14	Carrot		14	人参	
15	Broccoli		15	ほうれん草	
16	Spinach		16	アスパラガス	
17	Asparagus		17	ピーチ	
18	Peach		18	みも	
19	Apricot		19	もも	
20	Melon		20	いちご	
21	Strawberry		21	みかん	
22	Orange		22	りんご	
23	Apple		23	バナナ	

(資料①)

クラス	名前	名前	名前	名前
1年1組	名前	名前	名前	名前
1年2組	名前	名前	名前	名前
1年3組	名前	名前	名前	名前
1年4組	名前	名前	名前	名前
1年5組	名前	名前	名前	名前
1年6組	名前	名前	名前	名前
1年7組	名前	名前	名前	名前
1年8組	名前	名前	名前	名前
1年9組	名前	名前	名前	名前
1年10組	名前	名前	名前	名前

(資料②)

問題	回答
1. 以下の単語を英語で書きなさい。	
2. 次の単語の日本語を答えなさい。	
3. 次の単語の英語を答えなさい。	
4. 次の単語の日本語を答えなさい。	
5. 次の単語の英語を答えなさい。	
6. 次の単語の日本語を答えなさい。	
7. 次の単語の英語を答えなさい。	
8. 次の単語の日本語を答えなさい。	
9. 次の単語の英語を答えなさい。	
10. 次の単語の日本語を答えなさい。	

(資料③)

3 研究の実践と実際

【日進中学校の実践】(R5年度第3学年107名)

(1)授業の導入での単語を定着させる帯活動の設定(ペア活動)

毎時の授業の導入で単語をインプットするために、ペアで単語チェックを行った。上記の資料①を活用し、一人が問題を出し、もう一人が答える。生徒用のタブレット端末にも資料①は配付してあるので、生徒が選択して、活動を行うことができることにした。(写真①②)
ペアでの単語チェックのルールは以下の通り。

＜ペアでの単語チェックのルール＞

- ① 日本語で問題を出したら、英語を答える。英語で問題を出したら、日本語を答える。
- ② 1ページを1分30秒以内に日本語あるいは英語どちらか一方を答えられたら、合格。
- ③ 単語の問題は、ランダムで出題。言えた単語は、問題を出した生徒がチェックをする。
- ④ 合格したら、上記の資料②のシートにシールを貼っていく。
- ⑤ 日本語・英語どちらも合格したら、次のシートに進む。

新しい単語チェックシートを配付する時には、必ず読みの練習を行い、読みが苦手な生徒は、カタカナで単語の読み方を書いてよいこととした。さらに、全体での読み練習の後、ペアで確認の時間を確保し、読み方が分からない単語をお互い確認させた。そうすることで、英語に苦手意識のある生徒でも、前向きにペア活動に取り組む様子が見られた。また、合格しなくても、繰り返し行うことで、少しずつ言える単語が増えることを目指した。さらに、合格したらシールを貼っていくことで、生徒は視覚的にも達成度を実感できるようにした。



(写真①)



(写真②)

(2) 授業の導入で、英語を発話する機会を増やす帯活動(グループ活動)

授業の導入で、即興で英語を使うために、グループでイラストを英語で表現する活動を行った。グループで一人答える人を決め、その人は伏せておく。TVモニターにイラスト(キャラクター、日本文化、場所など)(資料④)を5秒間だけ写す。解答者以外の生徒は、それを見て、ヒントを出す。毎回イラストを変えて、即興性をもたせて行った。英文で考えるのではなく、思いついたヒントをできるだけたくさん単語で伝えてもよいこととした。そうすることで、英語が苦手な生徒も伝えようとする姿勢が見られた。また、ヒントを伝える時間を30秒と制限することで、生徒がゲーム感覚で楽しく取り組むことができた。

例えば、(資料④)の場合、「red ball(赤い球)」、「Japanese Toy(日本のおもちゃ)」や「like sword(剣のようなもの)」などのヒントが出た。これを繰り返すことで、視覚で捉えるものを、何とか

簡単な英語で相手に伝えようとする姿勢が多く見られた。また、相手の目を見たり、グループで協力して伝えようとしたりする場面も多く、コミュニケーションを図る機会も増えた。

(3)教科書の内容把握や問題演習でのグループ活動

帯時間でのペア活動や、グループ活動を繰り返し行うことで、話しやすい雰囲気をつくることを意識した。教科書の内容把握は、こちらが全て日本語訳を与えるのではなく、重要語句や、新出の文法を使った文章を穴埋めにしたワークシート(資料③)を用意し、全員英文に目を通すことを意識させた。英語に苦手意識をもった生徒にとっては、一人で英語の問題を進めることに、とても抵抗がある。何もしない時間を過ごすよりは、グループで行うことで、単語の意味などを聞きやすくなるだろうと考えた。最初は、黙々とワークシートに取り組む生徒が多く、苦手意識をもった生徒にとっては、聞きづらい雰囲気もあった。しかし、繰り返しグループ活動を取り入れることで、少しずつお互いの解答を確認したり、「この単語の意味何だっけ」「ここ教えて」と苦手な生徒が、得意な生徒に聞いたりする場面も増えた。(写真③)

さらに、英語が得意な生徒は、少しずつ周りを気にするようになり、グループの中で困っている生徒がいると、声を掛けるようになった。



(資料④)



(写真③)

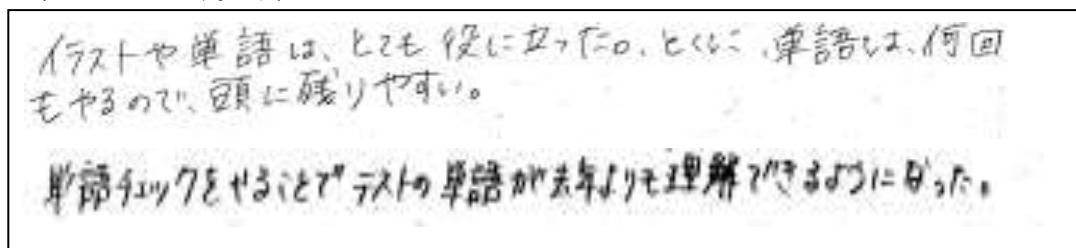
4 研究の結果と考察

(1)単語チェックシートを活用したペア活動

令和5年度の入試方法改訂によるマークシート導入をきっかけに、単語を見て意味がすぐ頭の中に出てくるにはどうしたらよいか、ということを考えこの活動を取り入れることにした。英語が苦手な生徒も、繰り返し行うことで、答えられる単語が増え、ペアの生徒も「今日は〇〇個言えたよ」などと声を掛ける様子も見られた。また、英単語を覚えることが苦しい生徒は、日本語の意味だけを答えることを目標とした。合格した時には、生徒自身が「やったー」「やっと合格した」など、喜ぶ声も聞こえてくるようになった。英語が得意な生徒は、先にどんどん進んでいくため、時には以前行った単語チェックシートを再度行うようにし、復習させた。何度も同じシートを行うことで、単語が記憶に残りやすいという生徒の意見もあった。

合格したらシールを貼っていくというシステムにしたことで、合格していくことが視覚的に生徒の目にも分かり、モチベーションにもなっていた。級友と見せ合ったりして、どこまで進んでいるかを確認したり、少し競争しながら取り組む様子も見られた。時間制限を設けていたことで、得意な生徒は、少しずつ短い時間で答えようとする姿勢も見られた。それぞれの生徒が、個々の目標を設定し、ペアでお互いの進捗を確認しながら進めたことで、得意・不得意に関わらず、主体的に英語の学習に取り組むことができた。さらに、ペアでの会話も増え、自然にコミュニケー

ションをとることができる雰囲気作りができた。この活動を繰り返し実践した後の、生徒の意見は、以下の通り。(資料⑤)

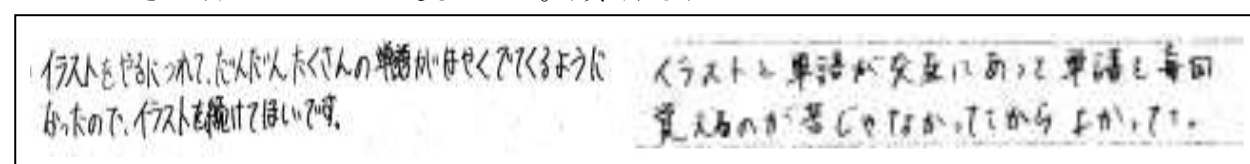


(資料⑤)

(2) 英語の発話の機会を増やすグループ活動

「英語を話す」という実際の場面を想定した場合、頭の中で一生懸命文章を考えていても、コミュニケーションを取れない。英会話の場面では、思ったことをすぐに言葉にできる力が必要とされる。そのようなことを考え、見たもの・考えたことをすぐに言葉に出すということを訓練しようと思い、この活動を実践した。これまでのパフォーマンステストの場面では、事前に自分の伝えたいことを文章にして、相手に伝えていたため、思ったことをすぐに英語に直して伝えるということに慣れていない。

今回の実践では、とにかく思い付いたことを単語で相手に伝えるという経験を繰り返した。さらに、30秒以内に伝えるという時間制限を設けたことで、思い付いたことをとにかくたくさん言葉にしようとする姿勢も多く見られた。英語に苦手意識をもった生徒でも、色や形など簡単な語、例えば「Red(赤い)」「Round(丸い)」といった短い言葉を使って伝えようとしていた。何よりも、英語だけでなんとか相手に伝えようとする姿勢や、相手に伝えるために少しジェスチャーも交えながら、相手の目を見て話そうとする姿勢が身に付いたと感じている。生徒自身も、繰り返し実践していくことで、徐々に単語が早く出てくるようになったり、楽しみながら英語を学習したりすることができるようになったと記述していた。(資料⑥)



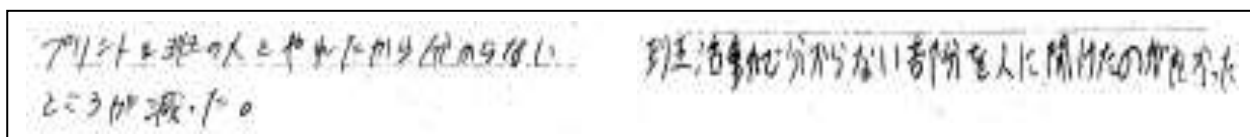
(資料⑥)

(3) 授業の中でのグループ活動を通して

学習指導要領の改訂に伴い、学習内容や教科書の本文の内容が、大幅に増えた。英語に苦手意識をもつ生徒にとって、教科書の内容を把握するだけでも、かなり抵抗があるように感じていた。その授業の中で、ただ座って聞いているだけでは、学習意欲も無くなり、何よりも英語の授業を楽しみを感じなくなる。「苦手でも授業は楽しい」と感じる生徒が増えてほしいと願い、グループ活動での内容把握を実践した。

この活動を通して、「これって、この意味で合ってる?」「この部分は、この単語の意味が入るよ」などと、自然と関わり合いが増えていった。また、「分からないことは、誰かに聞いていいん

だ」という雰囲気が見られ、英語が苦手な生徒が周囲に助けをもらいながら、少しずつワークシートに取り組むようになった。継続してグループ活動を取り入れた結果、授業の中で、分からないから何もしないという生徒は格段に減少したように感じている。実際に生徒の振り返りでも、「以前よりも分からないところが減った」という意見もあった。(資料⑦)



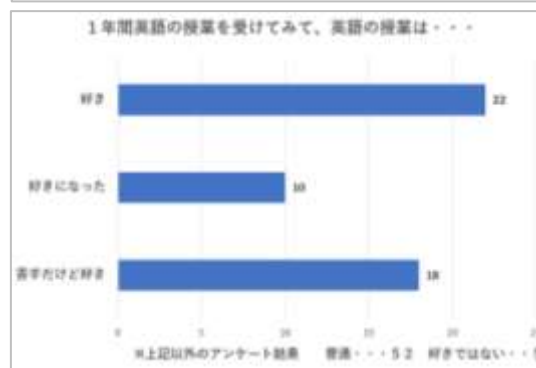
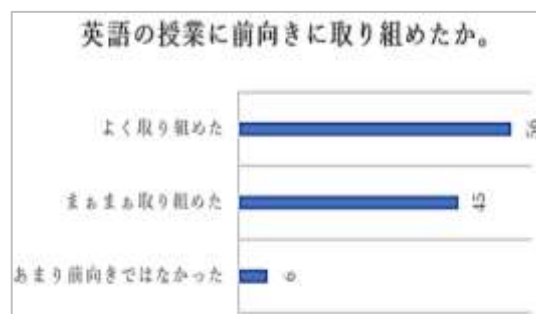
(資料⑦)

5 研究の成果と課題

令和4年度秋以降で、この3つの活動を続けてきた。3年生になって、入試を意識するようになり、ペアでの単語チェックや、グループでの単語チェックなど、方法を変えながら実践してきた。授業の最初の帯時間に、様々な活動を実践することで、生徒が自然と英語の授業に臨めるようになり、英語を学習する雰囲気を作ることができた。

令和5年度の最後に、英語の授業に関するアンケートを実施した。(資料⑧)

「英語の授業に前向きに取り組めたか」の質問に対して、生徒の振り返りの中に、「イラストなどが楽しくて、英語の授業が楽しみになっていた」「イラストや単語、班で和訳したりして、英語が楽しいと思っていた」という記述があった。様々な活動を取り入れたことで、英語の授業に対する意識の変化があったように思われる。また、「1年を通して、英語の授業に対してどう感じているか」という質問に対しては、全体の3分の1の生徒が、「好きになった」「苦手だけど好き」という回答であった。元々英語が好きな生徒は、自ら進んで学習できるが、苦手意識をもった生徒が、少しでも「英語」という教科に対して、前向きに捉えられるようになることが大切だと感じていた。



(資料⑧)

この結果から、少しずつではあるが、そのような生徒がいたことが分かる。

6 まとめ

今回、様々な活動を授業の最初の帯時間に取り入れたことで、生徒が英語に取り組もうとする姿勢が変わった。今後も、楽しいことが学びにつながるよう工夫していきたい。そして、継続していくことで、自然に生徒の英語力向上につながることを目指していきたい。また、英語に苦手意識をもった生徒が、授業を楽しみと感じ、主体的に取り組もうと思える授業を展開していきたい。